

東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：6 月 2 日～7 月 1 日）

平成 13 年 6 月 1 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

[気 温] 東北地方	20	40	40
[降 水 量] 東北地方	20	50	30
[日照時間] 東北地方	20	50	30
	低い（少ない）	平年並	高い（多い）

[気 温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「低い」の可能性は 20% と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。「多い」の可能性が次に大きく、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。「多い」の可能性が次に大きく、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方の天気は概ね周期的に変化しますが、前線や低気圧の影響を受け易く曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、オホーツク海高気圧の影響で一時気温が低くなる見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

向こう 28 日間の晴れ日数：東北地方で約 12 日

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間の前半は高気圧に覆われて晴れる日もありますが、後半は気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多く、6 日頃は天気の崩れる所もあるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 4 日

2 週目…………… 前線や低気圧の影響を受け易く曇りや雨の日が多いでしょう。(6 月 9 日～6 月 15 日) オホーツク海高気圧の影響で一時気温が低くなる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

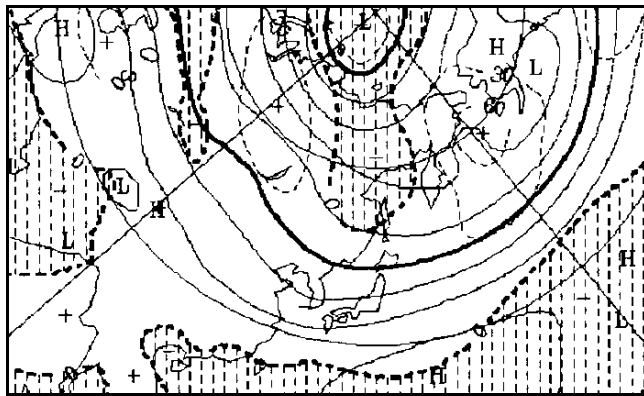
平年の晴れ日数：東北地方で約 3 日

3～4 週目…………… 天気は概ね周期的に変化しますが、前線や低気圧の影響を受け易く曇りや雨の日が多いでしょう。(6 月 16 日～6 月 29 日) オホーツク海高気圧の影響で一時気温が低くなる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 5 日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

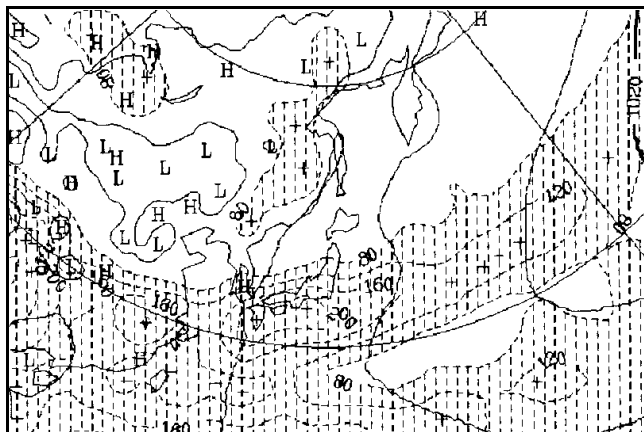


月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は弱い正偏差だが、日本の南東海上の太平洋高気圧は概ね負偏差に覆われる。西谷傾向で前線や低気圧の影響を受け易いが、天気は周期変化が基調となる。

週別（図略）では、1 週目は正偏差で日本の南海上の太平洋高気圧は平年より強い。2 週目は太平洋高気圧が平年より弱い。西谷が顕著。また、オホーツク海には弱い気圧の尾根。3～4 週目も日本付近は西谷で、オホーツク海付近に気圧の尾根が予想される。

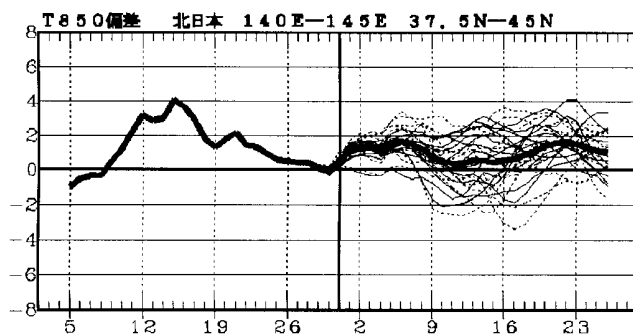


月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本の南には太平洋高気圧が張り出し、北海道の東にはオホーツク海高気圧が張り出す。この 2 つの高気圧の間には前線帯に対応するくびれがみられる。日本の南岸には梅雨前線に対応するまとまった降水域があり、東北北部まで広がる。

週別（図略）では、1 週目は西日本にまとまった降水域がかかる。2 週目は降水域は東北北部まで広がり、ややまとまった降水域は日本の南岸。オホーツク海高気圧も予想される。3～4 週目は、前線に対応するまとまった降水域が本州南海で明瞭になる。また、オホーツク海高気圧が予想されており、一時気温が低くなる見込み。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
（縦軸：気温平年差（ $^{\circ}\text{C}$ ） 横軸：日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

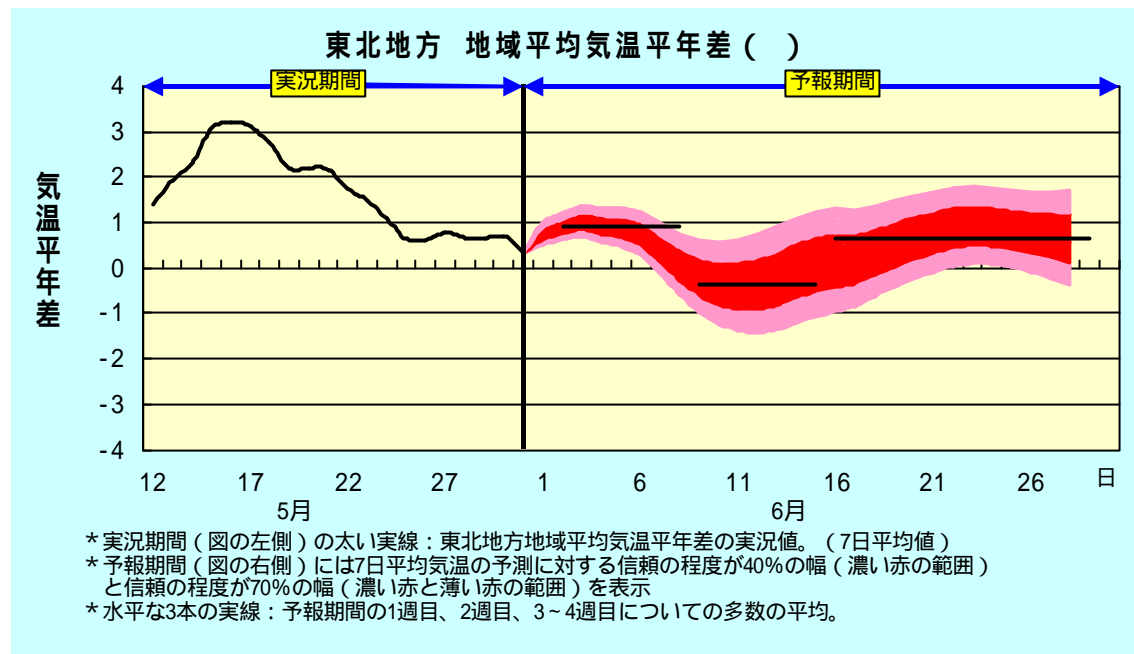
アンサンブルメンバーの平均は 1 週目平年より高く、2 週目にはほぼ平年並になる。3～4 週目は再び上昇して平年より高くなる。

ただし、2 週目以降は各メンバーのばらつきが大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1 週目「高い」、2 週目「平年並」、3～4 週目「高い」を予測している。予報は、2 週目までは予測をそのまま採用するが、3～4 週目にも地上天気図でオホーツク海高気圧が予想されることから「平年並」に修正する。

なお、予報の信頼度は大きい。

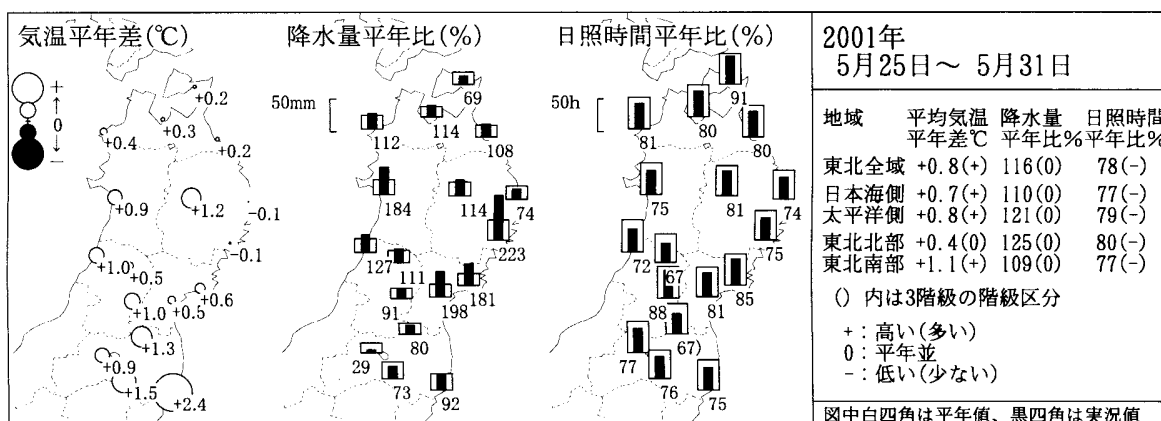


4．最近1週間（5月25日～5月31日）の天候の経過

この期間、天気は概ね周期的に変化した。26日は東北地方を低気圧が通過し、曇りで雨や雷雨となった。27日は寒気の影響で曇りとなったが、28～30日にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。ただし、29～30日は上空に寒気が入ったため、東北南部では雷雨となるとところがあった。31日は日本海と日本の南岸を進んだ低気圧の影響で東北地方は雨となった。

また、期間の前半は東よりの冷たい風が入ったため、東北太平洋側の北部沿岸では最高気温がかなり低く、岩手県の沿岸北部には低温注意報が発表された。

平均気温は、東北北部で平年差+0.4 と平年並、東北南部で平年差+1.1 と高かった。降水量は、東北地方で平年比 116%と平年並だった。日照時間は、東北地方で平年比 78%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）